



「ゲーム障害」に要注意！

先週 8 日（金）に、6 年生の児童と保護者を対象に、「修学旅行説明会」を行いました。そして、説明会后、岡崎市教育委員会指導主事の近藤雄一先生を講師にお招きし、「ネット依存防止講座」を開きました。その講座で、近藤先生は「ゲーム障害」について話をされました。ゲーム障害は、子供たちの成長にとって大変気を付けなければならないことだと痛感しましたのでお伝えします。



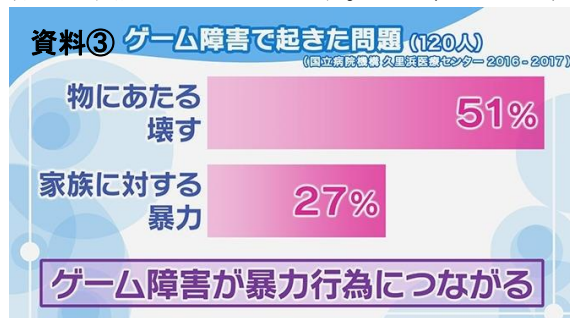
ゲーム障害は、「ゲームに熱中し、利用時間などを自分でコントロールできなくなり、日常生活に支障が出る病気」です。WHO（世界保健機関）では、ゲーム障害を新たな病気として 2019 年 5 月に国際疾病分類に加えています。ゲーム障害の兆候としては、資料①のような状態が見られるようになります。この状態がしばらく続き、資料②で示したように、脳が理性で本能を抑えられなくなってしまうゲーム依存の状態に陥ると、ゲーム障害という病を発症することになってしまいます。

資料① ゲーム障害の兆候

- 使用時間がかなり長くなった
- 夜中まで続ける
- 朝起きられない
- 絶えず気にする
- ほかにのことに興味を示さない
- 注意すると激しく怒る
- 使用時間や内容などについて嘘をつく
- 課金が多い



では、ゲームを通してなぜこのような障害を引き起こすことになるのでしょうか。それは、大きく二つの理由が考えられます。一つ目は、ゲームを長時間やってしまうことです。日常生活がゲーム中心になると、食事や睡眠よりもゲームを優先してしまい、生活のリズムが乱れて健康を損ねることにつながります。二つ目は、年齢にふさわしくないゲームをやってしまうことです。特に、戦関係のゲームには年齢制限が設けられていますが、これを守らないと、低年齢の子供には仮想と現実の区別がつきにくく、様々な問題が生じてきます。また、ゲーム中にボイスチャットで暴力的な発言をしてくる子もおり、その悪影響を受けたり、敵を倒していくゲームの特性上、暴力的な表現を覚えたりして、資料③にあるように切れやすく攻撃的になる心配があります。



ゲームの悪影響からお子さんを守るためにも、一度、お子さんとゲームの行い方について話してください。

ゲームの悪影響からお子さんを守るためにも、一度、お子さんとゲームの行い方について話してください。